2013年度「研究部会活動記録」

部会主任名	渡会勝義	現代政治経済研究所
研究課題：経済思想史における人口・貧困・福祉：その国際比較および歴史的研究		
月/日	活 動 記 録	
2014年3月 14日（金）	<p>次のように研究会を、現代政治経済研究所にて行った。</p> <p>16:00～18:00</p> <p>報告者：佐野幹雄</p> <p>タイトル：T. トウックの貨幣思想</p> <p>貨幣論史上重要な人物であるトーマス・トウックの主著である『物価史』における貨幣思想の研究を報告してもらい、古典派時代の貨幣思想および現代の貨幣思想との皮革を巡って討論を行った。</p>	
3月19日 （水）	<p>以下のようなプログラムで研究会を、現代政治経済研究所会議室にて行った。報告者は、石井穰（関東学院大学准教授）、小峯敦（龍谷大学教授）、渡会勝義（早稲田大学教授）、新村聡（岡山大学教授）、Cosimo Perrotta（イタリア、サレント大学名誉教授）であった。</p> <p>The Programme for the Conference, 'Population, Poverty and Welfare in the History of Economic Thought: an international comparison Waseda University, Tokyo, Japan 19 March 2014</p> <p>9:55 Opening Katsuyoshi Watarai(Waseda University, Japan))</p> <p>10:00 John Barton on Population, Poverty, and Measures. By Jou Ishii (Kantou Gakuin University, Japan)</p> <p>Chair: Satoshi Niimura (Okayama University, Japan)</p> <p>Comment: Katsuyoshi Watarai</p> <p>11:00 Beveridge and his Pursuit of an Ideal Economics: How was the Post-War Vision Constructed? By Atsushi Komine(Ryukoku University, Japan)</p> <p>Chair: Katsuyoshi Watarai</p> <p>Comment Satoshi Niimura (Okayama University, Japan)</p> <p>12:00 Lunch Time</p> <p>14:00 Kinjiro Ninomiya's Economic Thought and Recovery from Poverty of Some Villages Towards the End of Edo Period. By Katsuyoshi Watarai</p> <p>Chair: Atsushi Komine</p> <p>Comment: Cosimo Perrotta (Salento University, Italy)</p>	

<p>3 月 22 日 (土)</p>	<p>15:00-15:30 Coffee Break 15:30 Is Adam Smith an Egalitarian? By Satoshi Niimura Chair: Atsushi Komine Comment: Jou Ishii 16:30 Genovesi's Economics: Evolution and Development By Cosimo Perrotta (Salento University, Italy) Chair: Satoshi Niimura Comment: Katsuyoshi Watarai 1730 Concluding Katsuyoshi Watarai 以下のように、イタリア、サレント大学名誉教授 Cosimo Perrotta 氏を迎えて、現代政治経済研究所会議室にて研究会を行った。 16:30 —18:00 報告者 : Cosimo Perrota (Emeritus Professor, University of Salento, Italy) Fear of Commodities in the History of Economic Thought in Europe 上記の報告後、古代から現代に至るヨーロッパの歴史において、商品の消費についてどのような思想・態度があったかについて、議論を行った。</p>
<p>来年度の 活動計画</p>	<p>引き続き、同じテーマ「経済思想史における人口・貧困・福祉：その国際比較および歴史的 研究」で、研究を続ける。大学院生による報告をできるだけいれて研究会を開催する。</p>
<p>終了の場合</p>	<p>研究成果刊行の時期： 年 月 (予定) 未定 研究成果の公開方法：メンバー各自が、論文を執筆し、学術雑誌に投稿し、また学会やコン</p>

ファレンスで報告する。